

5/21

プロレタリア国際主義のもとインドシナ 革命斗争に連帯し 5.29全口統一行動から 6月安保斗争に向けて ▶ 我々の戦線の構築へ ▶

世界反動勢力の策動は、一瞬たりとも休みなく、展開されている。

全市大の学生諸君、

昨秋の全共斗運動の崩壊以来、秋期斗争を大變的に闘ったとはいえ、我々の戦線は今も十分に立ち直ってはいない。しかし我々は、4・28斗争を総括する中から安保斗争（斗争委）を結成し、5・14斗争を、米帝の力、ボミア侵略弾劾、外相のアジア会議参加阻止のスローガンのもと、扇町の全関西統一行動において、市大病院を襲撃、京大医白赤の諸君との統一集会を獲得し、三〇〇名の隊列をもって、二〇〇〇名の労働者、学生、市民と共にデモを闘い続けた。しかし我々のこの中大における戦線は、まだ十分とはいえない。だが諸君、我々の戦線が十分で低迷している最中にも、米帝を中心とする、世界反動勢力の策動は、一瞬たりとも休みなく、展開されている。

とりわけ4月30日、ニクソンによって明らかにされた米軍の力、ボミア侵略と、同時に進行された、南ベトナム政府軍の無期限全面的な力、ボミア進攻、駐留作戦というのは「アジア人はアジア人の手で」というニクソン・ドクトリンの本質を露骨に暴露した。東南アジア全体をアジア人を使って自らの政治的、経済的支配を完徹しようとしているのだ。しかし我々はこのことを忘れてはならない。日本政府はこの米帝のアジア侵略に対し「やむを得ない措置だ」という形で認めている。そして自らの東南アジア地域での経済的侵略と、それともなう、政治的支配を目指すべく「アジア会議への積極的介入を表明した。そして自ら米帝とともにアジア人民抑圧を積極的に行おうとしている。だがニクソンは忘れてはならないことは米帝がくくも東南アジアでの日本の役割を期待すると述べている。今日このインドシナの問題は、単に米帝、日本の利益争いだけではない。世界の帝国主義口実の肉體としてあるというのと、そして又「人間の本来は社会的諸関係の総体」としてあるというのからいって、我々自身一人一人が現在の世界資本主義体制を支え、そして、そのことは同時に、我々一人一人がインドシナ情勢に深くかかわっているといわなければならない。我々自身が学生生活という日常性で埋没し、学生という特権を享受している内にもインドシナでは人間が虐殺されているのだ。すなわち我々自身は単に労働力商品として人間化されているという意味での被害的立場にあるというのと同じ同時にインドシナ人民に対する加害者の立場にあるのだ。我々自身が自己のこのようであるを止揚して行くには、現存の人はプロレタリア国際主義のもと、帝口主義体制を攻撃していく闘い、すなわちプロレタリア革命に向けての闘いを組織していくしかこの解決はないだろうし、又このさような闘いを通じて、インドシナ斗争と、一層解放戦線が、民族の独立、平和、中立の立場の限界性をはらんでいるが、世界革命に向けた一環として位置付け、我々自身も6月安保斗争を当面の任務として設定し、先達口革命を推進する一翼と、organize.

全ての学生諸君は安保斗争委に結集せよ //

安斗(準) 5/21